

平成 29 年度 第 3 回学校協議会 議事録

平成 29 年 11 月 21 日実施

- 協議会委員の出席者
今西会長、中井委員、吉本委員、山岡委員

- 教職員の出席者
中嶋教頭

- 協議・意見交流
 - ・学校全体で落ちかない状況があり、なかなか対応に苦慮することも多いと思うが、私も先生方を指導している関係で、何度か味生小学校に足を運んでいる。関わっているクラスでは、2学期の初めくらいから先生もだいぶ落ち着いてきて、自分のやり方というか、先生の良さや持ち味を出せるようになってきて、子どもたちとの関係も良くなってきた。学校の決まりがあつて、『立腰』に取り組んで学校としてきちんと揃えてやっっていこうと一生懸命やっているが、なかなかできない。少しの時間はもつが、長くはもたない。すぐに崩れてしまう。その辺を苦労していたが、ある程度は認めてやるというか、受け止めた上で接していくとか、そういうことができてきたように思う。ちょっと変わってきている。
 - ・経験の浅い教員は、学校全体の取り組みをちゃんとしないといけないと思って、まじめに一生懸命やろうとしている。号令の前に『黙想』なども取り入れて指導するのもよいと思う。
 - ・味生小学校は、今年度、先生方が大きく入れ替わったこともあり、距離感が変わったというか、雰囲気が大きく変わったような気がする。
 - ・地域から、授業参観の話がある。学校側は負担になるかもしれないが、参観できる機会、学校の様子を地域にも知らせてもらえる機会があればありがたい。『立腰』などでピシッとさせることは良いことだと思った。普段から子どもと会話をする機会があるので、あまり感じないが、「どんな様子？」と地域の人に聞かれることがあり、みんな関心をもって子どもたちのことを見てくれていると感じている。
 - ・学校が落ち着かなくなると、子どもたちにまともなことが入らなくなる。逸脱した行動が出てきているので、危険信号として捉えるべき。ルールを守れるように子どもたちを引き戻していかないといけない。
 - ・この地域に住んでいる方の知恵を借りるのも1つの方法。淀川に住んでいる鯉の習性をよく知っている方がいたり、鳥飼大橋ができる前に渡し船の船頭をしていた方がいたりするので、そういう人から話を聞くのも子どもたちにプラスになるのではないかな。
 - ・様々なことで、保護者が頑張っって後押ししてくれたら、先生は育つ。保護者の一言で変わる。私が講師を務めた講演会でも「保護者が教師を育てるのだから、子どもと一緒にあって応援して欲しい。子どもたちもそれを聞いてちゃんとするようになる。」と話した。
 - ・いつも言っているが、とにかく食事。食事が一番。これが子どもの最後の砦。今は共働きが増えて、お母さんも働いていて、子どもは塾に行つてと、なかなか一緒に食事をしにくい状況だが、1週間に最低でも2回は一緒に食事をとれるようにするのが望ましい。そして2週間に1回は、子どもの好きなものを出してやっつて、いじめとか虐待とかいろいろあるけど、食事を一緒にとる中で、一番身近にいる親が絶対に気が付く。家庭で発見するのは食事しかない。子どもの好きな食事を出しているのに、いつもだったら3杯くらい食べるところ、1杯しか食べないで自分の部屋に行ってしまったら、この子絶対なんかあるという風に気付くはず。
 - ・いじめているとか、いじめられているとか、何か学校であるか、友達関係で悩んでいるか、そういう場面で出てくる。じっくり、親が子どもにわかるように話をしたら防げるはず。
 - ・親には話しにくいとか言うけど、親が感じてあげて、ちょっとコソコソしてあげたら悩み事などが出てきたりすると思う。
 - ・学校も足りない所があると思うけど、子どもも変わってきている中で、一番に発見できるのは親。親に相談できるよう、話をする機会があれば、違ってくるはず。子どもと話をする時間を必ずつくって欲しい。
 - ・学校の図書室の利用状況はどうか？国語では、本に親しむ習慣が大切だと思われる。算数の場合は基本

を押さえた上で、応用ができるようにすることが大切。国語の場合は、まず字に親しむことから始めた方がいい。いつも思うのは、大人が便利ということで、スマホなどを使って、すぐ情報が取り出せるかもしれないが、一方で必要なことが覚えられないという弊害もある。

- スマホや携帯は、ものすごく便利。便利だけど、子どもの想像力はなくなると思う。
- 学力調査結果で、国語が厳しいと出たようだが、私の印象としては『文じゅーる』で書くことについて力を入れてやってこられたと思うが、意外な結果という気がした。その辺りはどう受け止めているのか。先日、国語の研究会で教科書を使って、しっかりと授業をされていたが。この時は「聴く」・「話す」に力を入れてやっていた。具体的なイメージが分かりにくい。実際の取り組みとこれまでの経過については、分析をしているのか。
- 「ちょっと挑戦してみようか」という内容の問題も必要。教科書でも基礎・基本のところと応用のところの問題があるから、応用の問題が解けるような力をつけてあげたい。そういう問題は、やらないとできない。学校の授業の中でできることを進めて欲しい。
- 応用問題に弱いのでは。難しいと思ったら解答を拒否してしまうように感じる。諦めてしまったらいけない。
- 保護者参観の時に子どもの問題を親に解いてもらったかどうか。そのことがきっかけとなって、家で会話が生まれるのではないか。
- 定着には、繰り返し、繰り返しになるので、継続力が大事ですよね。別に勉強だけに関わらず、物事を継続してやり続ける力が大切です。社会に出ても絶対につきまとうことで、コツコツやるって大事って思うようになります。
- 「心」・「技」・「体」の「心」なのに、格好良さを求める。すると伸びない。ちやほや騒がれて駄目になってしまう。学習だけでなく心をしっかり育てて欲しい。